

Title	上代文學に現れた日本精神(野村八良著, 大岡山書店刊行)
Sub Title	
Author	松本, 芳夫(Matsumoto, Yoshio)
Publisher	三田史学会
Publication year	1931
Jtitle	史学 Vol.10, No.4 (1931. 12) ,p.143(697)- 143(697)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19311200-0144

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

てみる。『レオナルド・ダ・ヴィンチ』は、偶々渡歐の船中に愛讀し、伊王歡迎のために盛飾せられたミラノのサンタ・マリヤ・デレ・グラチエの僧院附屬の食堂に、ダヴィンチの『最後の晚餐圖』を特に興味を以て見ることを得しめた、私に取つても忘れる事の出来ない書物なので、之を含んだこの良著がかく美裝せられて新に多くの讀者を持ち得るに至つたことは私のひそかに喜に堪へない所である。

本書の初めの部分に於て用ゐられてゐた「ルネッサンス」なる用語が、この術語の意義を考證せる最後の一篇(五七七—五八〇頁)に於て「ルネッサンス」と改められてゐることは、この語が西洋史上特に重要な時期を表示する言葉であるだけに、極めて意義あることである。當期研究の權威者としての澤木氏によつてのこの用法は、我等すべてが踏襲すべき標準語を一定したことになるのであつて、今後我等はルネッサンス若くはルネーッサンスの用語の使用を避くべきである。(間崎万里)

上代文學 日本精神 (野村 八良著)
大岡山書店刊行

本書の論述の趣旨はその巻頭の序言に明かにされてゐる。即ち「……今日の思想が何となく中心を失つて居り、徒に酔つてゐるもの、溺れてゐる者が多いのであるから、其の匡救の方法としては、中心を明にし、陶醉者、惑溺者に自覺を促し、以て一般民衆に歸趨する所を示さなければならぬ。それで一大先覺者の出現も待望せられるが、差當り識者間に良策が講究せられなければならぬ。洵に

書 評

微々たる予輩も、官學に奉仕して日々古文學を講じてゐる職責上、徒に袖手傍觀は出来ないのである。憂心怏々私に平生考察してゐる所を披瀝し、以て熱烈なる祖國愛を同志の間に唱道しようと思ふ念は止み難い。其の一端が此の一篇となつたのである。』さうしてまづ序論としては上代文學一般、國語の特性と上代文學、古史神話の特質、及び上代史概観などを述べ、次に本論としてまづ上代人の生活及び風習を各方面から叙べ、ついで上代文學に現はれた日本の諸觀念を細目に分けて詳述し、最後に餘論として中古時代並に武家時代文學上の日本精神を略述した。かくて本書は「古今を貫いて日本精神の如何なるものであるかを明かにするので、畢竟今の人に國民的自覺を促すのを目的とするのである」。しかしながら吾々が本書を通讀して感ずることは、その論述の事項があまりに多岐に亘りすぎた故か、謂ふところの『日本精神』の感銘が甚だ稀薄となつたらうらみがある。もし『日本精神』をもつて、『敬神崇祖を最大の信條とし、どこまでも強い國家的意識を持ち、飽くまでも堅い皇室中心主義を抱いて、此の金甌無缺の國體を今日に傳へた』われらの祖先の精神を意味するとなすならば、論述の事項をも少し局限して、この點を強調すべきであつたらうと思ふ。なほ序に一言したい。思想問題の對策として、祖先の精神を顧みることの妥當であることはいふまでもないけれども、しかし現下の思想問題は現實の社會情勢と密接の關係があるのであるから、歴史研究の尊重とともに、他方において嚴正なる現實の批判と匡正を怠つてはならないことを留意してもらひたい。(松本芳夫)